

# 令和4年度 都城市立石山小学校 学校評価報告書

【評価基準 4:期待を上回る 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する】

評価項目	重点指導項目	方策・手立て (⇒)達成状況等 ※「児童」「保護者」は、肯定的な回答(そう思う、大体そう思う)の割合	成果と課題	自己評価		改善策等	学校運営協議会	
				項目	総合		評価	意見
Ⅰ 学力の向上	1 日常的な授業改善	① 各教科の単元テスト平均85%以上を目指し、平均をやや下回る児童も分かる・できる授業を実施する。 ② 「授業改善4+4」を意識した授業実践及び教師の自己評価の実施 ⇒○ 児童「学校の勉強はよく分かりますか」→95% ③ 学期ごとに国語や算数の少人数指導を計画し、複数教師で苦手な内容を重点的に指導する。 ④ 有効な手立てを広め、意識を高めるOJTを推進する。 ⇒○ 児童「自分の考えを発表していますか」→92% ○ 保護者「お子様は、学習の内容を理解していますか」→92% ○ 保護者「職員は、わかりやすい授業を行い、一人一人を伸ばす指導に努めていますか」→93%	① 学力テスト等の結果分析を行ったり、学習用PC等のICT機器や学び合いを取入れた研究授業を延べ7回実施したりして、授業改善を図ることができた。 ② 担任が、「授業改善4+4」を常に意識して授業をするように見える所に置き授業の改善に努めた。 ③ CRT 学力調査(国語・算数)において、1～6学年で、それぞれ国語、算数の12区分のうち7区分が全国平均を上回った。課題として記述式の問題に慣れさせる必要がある。 ④ 個に応じた支援はさらに検討が必要である。	3.0		① 具体的な個に応じた指導の在り方について OJT 研修等で検討し合い実践できるようにしていく。 ② 「子ども達が主役の授業」を目指し、授業改善につなげていく。 ③ CRT の結果分析を行い、補充指導をしっかり行う。 ④ 今後も計画的に OJT 研修を行い、全員の授業力向上につなげていく。		○ 各教科のテストの結果に指導の成果が表れている。 ○ 少人数なので、ひざを交えた教育を進めてほしい。 ○ 児童が親近感をもって学習を進めるようにしてほしい。
	2 家庭学習の充実	① 「こつこつぐんぐんプリント」「家庭学習ノート」「キュビナ」等、家庭学習の工夫及び習慣化を図る指導をする。 ⇒○ 児童「宿題を自らしていますか」→96% ○ 保護者「家庭学習の習慣が身に付いていますか」→91% ② 毎学期、「ノーメディアウィーク」に取り組む	① 「こつこつぐんぐんプリント」「家庭学習ノート」「学習用PC」の持ち帰り等、により家庭学習の習慣化が図られた。 ② 決まった時間に決まった場所で勉強する取組は定着してきている。	3.0	3.0	① 児童一人一人の習熟を図るための家庭学習の内容の工夫が課題である。 ② 6年生では、平日の学習時間1時間以上が90%であった。	3.0	
	3 読書活動の充実	① ボランティアによる読み聞かせを実施する。 ② 図書館サポーターや図書委員会による読書イベントを実施する。 ③ 読書冊数の目標設定及び多読賞の表彰をする。 ⇒○1学期多読賞84%、2学期多読賞87% ④ 家読週間に読書をする。 ⇒○ 児童「家読週間は、いつも読書をしていますか」→84% ○ 保護者「家読週間には本を読んでいますか」→64%	① 下学年を中心にボランティアによる読み聞かせを実施できた。(1年7回、2年6回、3年4回) ② 読書イベントを学期ごとに実施し、貸出冊数が目標(11000冊及び個人120冊)を超えた。(2月14日現在12288冊) ③ 目標冊数に達して、多読賞をもらう児童が80%を超えた。 ④ 家庭で読書をする習慣が身に付いていない状況がある。	3.0		① 児童は、ボランティアによる絵本の読み聞かせを楽しみにしているため、感染対策をとって実施する。 ② 目標冊数(12000冊及び個人130冊)を設定し、全校で読書に取り組む。 ③ 多読賞をもらう児童が、85%を超えることを目指す。 ④ 引き続き「家読週間」を設定し、取り組んでいく。		○ 読書は、同じ本を3回くらい繰り返し読むと、新たな気づきがあったり、深く理解できたりする。 ○「なんで～だろう」という疑問から本を読んでいくとよい。

評項 項目	重点指導項目	方策・手立て (⇒)達成状況等 ※「児童」「保護者」は、肯定的な回答(そう思う、大体そう思う)の割合	成果と課題	自己評価		改善策等	学校運営協議会	
				項目	総合		評価	意見
2 豊かな心の育成	1 人権尊重の意識を高める	<p>① 定期的な「いじめ・なやみ調査」と教育相談を活用することで、児童理解に努める。 ⇒○ 児童「学校は楽しいですか」→97% ○ 保護者「楽しく学校に通っていますか」→97% ○ 保護者「学校は悩みや相談に誠意を持って対応していますか」→91%</p> <p>② 道徳科や特別活動の指導を通して人権尊重の意識を高める。 ⇒○ 児童「友達のことを思いやりながら、やさしく接していますか」→95% ○ 保護者「友達に優しく、思いやりのある態度で接していますか」→99%</p> <p>③ 人間関係において肯定的な自己評価をする児童の割合90%以上を目指す。 ⇒○ 児童「自分にはよい所があると思いますか」→81%</p>	<p>① 心のアンケートや教育相談を定期的に行い、児童の些細な変化や気になる様子に気づき、個別に話を聞いたり、保護者からの情報を得たりしながらいじめの早期発見と早期解決を行った。(いじめ事案1件、不登校0)</p> <p>② 道徳科や特別活動を中心に、人との関わりに関することについて具体的な指導をしてきた。また、全校朝会で「ともだちについて」や「相手を思いやる言葉遣いの大切さ」や「命の大切さ」等について指導した。</p> <p>③ 自己肯定感や自尊感情を高めるために、指導の工夫をし、学校、家庭、地域でよい所を認め自信をもたせる環境づくりを進める。</p>	3.0		<p>① 定期的な「いじめ・なやみ調査」と教育相談は、継続し、児童理解に努めいじめやなやみを早期に発見し、即対策を検討する体制をつくり、組織で対応する。</p> <p>② 道徳科や特別活動の指導を中心に、人権意識を高め、思いやりの心を育む指導を進める。</p> <p>③ 児童一人一人のよさに目を向け、よさを認め、自分のよさに気付かせるために、学校、家庭、地域で連携を深める。</p>		<p>○ 通学の様子を見ていると、上学年が下学年を連れて登校している。 ○ 傘や荷物を持ってあげて、助け合っている姿がよい。 ○ 幼稚園児も一緒なので上学年が手をつないで登校している様子が微笑ましい。 ○ 優しい子ども達が多い。 ○ 自分のよさにまだ気づいていないので、よいことをしたら周りの大人が褒めてやり、気づかせるとよい。</p>
	2 規範意識の醸成	<p>① 「石山よいこの生活」や月目標による指導事項を重点化し、具体的な手立てを講じる。 ⇒○ 児童「学校や学級のきまりを守っていますか」→98% ○ 保護者「学校のきまり」「石山小よいこの生活」や交通ルールを守っていますか」→98%</p> <p>② 基本的生活習慣(あいさつ・返事・言葉遣い等)の定着を図る。 ⇒○ 児童「進んであいさつをしていますか」→89% ○ 保護者「進んであいさつができていますか」→94% ○ 児童「ろうかを歩く約束」「はさみ」を守っていますか」→96%</p>	<p>① 児童の発達の段階に合わせて、担任が、よい行動を認め称賛する等意欲を高めるように指導を工夫した。また、家庭との連携を図りながら長期休業中もきまりを守って生活できるように定着を目指した指導を行った。</p> <p>② 基本的生活習慣の「あいさつ」については、自分から先に気持ちのよいあいさつをすることの大切さを繰り返し指導してきた。地域の方や保護者からあいさつがよくできる子が増えてきたと褒めていただくようになった。</p> <p>言葉遣いについては、「言われてうれしかった言葉」を児童から集め、給食時に放送で紹介した。</p> <p>廊下歩行は、全職員で共通理解・共通実践を繰り返し、しっかりとできるようにやり直しをさせることもしている。</p>	3.0	3.0	<p>① 「生活目標」「石山5つのやくそく」「石山よいこの生活」など、時と場に合わせたきまりに沿って、行動や言葉遣い等ができるように、全職員で指導する。</p> <p>② よい行動を認め、その場にふさわしくない行動や言葉遣いについて、なぜふさわしくないかを考えさせる指導を行い、判断力と行動力を育てる。</p>	3.0	<p>○ 少人数のため、1年生から6年生までずっと同じ人間関係が続き学級編成が無く変化がないが、それをメリットとしていくとよい。 ○ 石山小学校の卒業生が高校で生徒会長をして活躍しているという情報を聞いてうれしかった。</p>

評項 項目	重点指導項目	方策・手立て (⇒)達成状況等 ※「児童」「保護者」は、肯定的な回答(そう思う、大体そう思う)の割合	成果と課題	自己評価		改善策等	学校運営協議会	
				項目	総合		評価	意見
3 たくましい体づくり	1 立腰指導の充実	<p>① 立腰指導を日常的に実践することで健康的な生活態度の意識向上を図る。 よい立腰の姿勢が視覚的に分かるように立腰の絵を示し、号令時に指導したが、授業中に立腰の姿勢を持続できないことがあり、個別に指導する必要があった。そこで、生活指導週間に「立腰チャンピオン」を目指す取組を行った。立腰の姿勢ができた児童にシールを配り、カードに集めていくことで、視覚化した。集めたシールの数で、「立腰チャンピオン」を決めて3学期に表彰することにした。</p> <p>② 立腰の姿勢ができていると肯定的な自己評価をする児童の割合80%以上を目指して、具体的に指導する。 ⇒○ 児童「座っているときに、立腰(グー・ペタ・ピン)の姿勢ができていますか」→82%</p>	<p>① 「立腰チャンピオン」は、生活指導週間に合わせて取り組み、年間を通した指導をすることができた。毎学期月目標に合わせて「立腰チャンピオン」の取組をしたことで、その期間は、立腰の姿勢を意識する児童が増えた。学期ごとに、シールを集めるポイントのレベルを上げ、段階的に立腰の姿勢がよくなるようにした。</p> <p>② 立腰の姿勢の気を付けるポイント(グー・ペタ・ピン)のどこがよいのかを具体的に認めることで、児童は、どんな姿勢をするとよいのか分かるように指導した。</p>	3.0	3.5	<p>① 3月の結果を基に、来年度の取組について検討する。</p> <p>② 「石山小5つの約束」の中に「姿勢」の項目を入れ、重点項目として示し「立腰」や「グー、ペタ、ピン」の合い言葉で授業前に姿勢を正すようにする。 全校朝会 of 全児童が集まる機会に声かけしたり表彰したりして、意識を持続させる。 姿勢棒を各学級に配付し、授業中に文字を書く時の姿勢を意識させる。 児童に立腰カードを配付し、姿勢を意識させるとともに称賛の場を設ける。</p>	3.5	○ 姿勢は、気を付けた方がよい。 ○ 学習用PCに入力するとき、集中すると目が近くなってしまう。高さや角度を調節するとよい。 ○ タイピングは、正しい指使いで練習するとよい。入力の仕方がとても速い。
	2 体力の向上	<p>① 運動量を確保した体育科指導の充実「石山サーキット」「石山ストレッチ」を実施する。 ⇒○ 児童「外で遊んだり、進んで運動したりしていますか」→95%</p> <p>② 体力テストは、「長座体前屈」で T スコア 50 以上を、男女 4 つの学年が取ることができるようにする。</p> <p>③ 体力づくり月間に(持久走、縄跳び、一輪車等)必要な時間を確保し、全校で取り組む。</p>	<p>① 体育の時間に「石山サーキット」「石山ストレッチ」を取入れ、運動を繰り返すことで、動きがよくなり、速さや柔軟性が高まった。</p> <p>② 体力テストは、県の課題項目以外に関して「上体起こし」「50m走」では、男女ともにすべての学年で T スコア 50 以上を取ることができた。また、「立ち幅とび」については、T スコア 50 以上を男女ともに4学年以上達成することができた。総合判定では、A 判定の児童が26%で、D・E の児童が大幅に減少していることから、全体的に体力が向上していることが分かる。</p> <p>③ 体力づくり月間に(持久走、縄跳び、一輪車等)の技に挑戦することで全身運動を繰り返し行うことができ体力向上につなげられるので、継続して指導をした。</p>	4.0	4.0	<p>① 「石山サーキット」のコースで使えなくなった遊具の代わりの運動を検討する。</p> <p>② 体力テストの取組 ○ 握力 授業開始時のサーキットの中に、鉄棒や肋木を使った運動を取り入れる。 ○ 20mシャトルラン 持久力を高めるために、授業開始時に走る活動やサーキットトレーニングを取り入れる。 ○ ボール投げ 準備運動で「石山ストレッチ」を行い、柔軟性を高める。</p>	4.0	○石山サーキットとはどういうものか。 ➡体育時に運動場の遊具を使って運動をしたり、体育館で体づくり運動を取入れたりしている。 ○ 点検により使用不可になった(肋木)は、修理に時間がかかるため現在は使用していない。 ○ 雨の日に歩いて登校する児童は少ない。

評項 項目	重点指導項目	方策・手立て (⇒)達成状況等 ※「児童」「保護者」は、肯定的な回答(そう思う、大体そう思う)の割合	成果と課題	自己評価		改善策等	学校運営協議会	
				項目	総合		評価	意見
4 開 か れ た 学 校 づ く り	1 学校運営協議会との連携	<p>① 学校運営協議会と連携した教育活動を推進することで、学習ボランティアの積極的な活用を図り、年1回のGTを取入れた授業実践をする。 ⇒○ 保護者「PTA活動など、学校と家庭・地域との連携が図られていますか」→95%</p> <p>② 地域への貢献活動に計画的に取り組む ふれあい活動 リメンバー石山「観音寺の清掃、ひまわりの種まき、コスモスの種まき」 認定子どもの家石山保育園児との交流</p>	<p>① 学校運営協議会を計画的に開催し、授業参観をしていただくことで、学校の日常の様子を見ていただくことができた。また、地域との交流活動を可能な限り計画・実施することができた。 見守り隊の方々による毎朝の登校見守り活動や地域ボランティアの協力による教育活動(法面の花植え、もちつき、ミシン縫いの学習)等ができた。</p> <p>② 地域との交流活動を積極的に計画し、地域に貢献することができなかった。</p>	3.0	3.5	<p>① 学校運営協議会と連携した教育活動を推進し、学習ボランティアや見守りボランティアなどの協力をいただくことで、教育課程の充実を図る。</p> <p>② 地域への貢献活動を積極的に進め、地域を愛し、地域に感謝する児童の育成を推進する。</p>	4.0	<p>○ 学校との連携はよくできている。すこやかフェスタの餅つきで保護者や地域と連携して行ったのがよかった。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症の影響でできなかった行事はあるが、石山ならではの地域の行事が残っていることは、素晴らしいので来年度は続けてほしい。</p> <p>○ 保護者の方が参加しやすい活動を計画するとよい。</p>
	2 積極的な情報発信	<p>① 「学校便り」や「ホームページ」など計画的・定期的な広報活動を充実させることで、情報発信に努める。</p> <p>② 学校の教育活動に対する肯定的な自己評価をする保護者や地域の割合90%以上を目指す。 ⇒○ 保護者「学校便り・学級通信・ホームページ等で学校・学級の様子を知らせていますか」100%</p>	<p>① 「学校便り」は、毎月発行、「ホームページ」は毎日発信することができた。(2月13日現在、アクセス数78,143増加)また、「sigufy」のメール機能の活用や欠席連絡機能の利用が進んだ。</p> <p>② 保護者は、「積極的な情報発信ができた。」という肯定的な自己評価だった。</p>	4.0		<p>① 「学校便り」や「学級通信」の発行や「ホームページ」の更新等で、保護者や地域の方々に向けて情報発信を継続して行う。</p> <p>② 「sigufy」での学校からのメールでの連絡や保護者からの欠席連絡等の機能を活用し、情報のやり取りを確実に行う。</p>		○ 学校からの情報が入りやすくなって、見守り隊の方への伝達もよかった。